



ちょっと昔の「とつか」のお話
あの場所で昔あった、
「あんなこと」「こんなこと」…
地域の皆さんに聞きました

「八坂神社のお札まき」は江戸時代中期から300年以上続く祭礼で、戸塚の夏の風物詩です。
そんな歴史ある「お札まき」の音頭取りを2023(令和5)年まで約40年間務めた神崎さんにお話を聞きました！

かんざき まさみ
神崎 征美さん



ずっと八坂神社の近くにお住まいとのことですが、子どもの頃の地域の様子を教えてください。

私は八坂神社(戸塚町)の近くにある「神崎畳店」の二代目です。八坂神社の辺りは戸塚宿の中でも中心地でしたから、商売をするにはいい場所だったのでしょうね。八百屋さん、乾物屋さん、肉屋さんに魚屋さん…近所になんでもありました。まだ子どもだった昭和30年代、お祭りの日には八坂神社から戸塚郵便局までずらっと露店が並び、にぎわっていたことを覚えています。車も少なかったので、夜の7時を過ぎて人出が多くなると道路の真ん中くらいまで人が歩いていましたよ。

当時はお祭りといえば露店が楽しかったもので、「お札まき」のことはほとんど知りませんでした。私の父も地域の一員としてお祭りに関わっていましたが、踊り手として参加していたのはほんの3～4年だったと聞いています。



▲お札まきの様子



▲「音頭取り」を務める神崎さん



▲1938(昭和13)年のお札まき

「お札まき」のことを教えてください

八坂神社の「お札まき」は毎年7月14日に行われます。女装した男性の踊り手たちが歌いながら町内を練り歩き、音頭に合わせて7色のお札をまきます。音頭取りが「サアこいこども！」と歌い始めると、他の踊り手が復唱します。音頭に合わせてひと踊りしたあとで、音頭取りがぱっとまいたお札を、踊り手たちが泣く泣く宙に散らすのです。ご利益のあるお札をゲットしようとする人々で大変なにぎわいになります。7色のお札のうち、魔除けを連想させる赤色は特に人気があるように感じます。私は30歳の頃に「お札まき」の仲間に加わりました。2023(令和5)年まで、40年ほど続けた音頭取りの大役を無事次の方に引き継ぐことができ、ほっとしています。40年前の当初、お祭りといえば露店目的のお客さんが多く、「お札まき」はあまり認知されていませんでしたが、今では多くの方が見に来てくれて、

写真を趣味にしている人もたくさん来られます。お祭りの後継者不足が問題になっている地域もあると聞きますが、「お札まき」に関してはやりたいと言ってくれる人が多く、数年前には高校生も加わりました。子どもの頃からお祭りを身近に感じてくれて、地域に愛着を持ってくれるとうれしいですね。

※お札まき…横浜市指定無形民俗文化財で、一説によると、子どもが病気にかからないように母親が自らの着物を踊り手に託したことが由来と言われています。

インタビュー記事をもっと詳しく(区WEB)▶



問 区役所企画調整係 (Tel) 866-8326 (Fax) 862-3054

● 戸塚警察署からのお知らせ ●

「必ずもうかる」投資はありません!!

メッセージアプリや交流アプリなどを通じて「簡単に儲かる」「特別な投資情報がある」などと巧みに誘い、金銭をだまし取る**SNS型投資詐欺**。一度お金を振り込んでしまうと取り戻すのは非常に困難です。高齢者を狙った従来の手口と違い、40～60代の被害が目立ち、特に男性の被害が多くなっています。

「SNS型投資詐欺」増加中!



被害にあわないための POINT

- 1 SNS上で知り合った人物からの金銭の話はまず疑う
- 2 「元本保証」「必ず儲かる」「限定情報」の言葉に注意
- 3 疑わしいときは、焦らず落ち着いて、家族や警察にまず相談



SNSに慣れている人でも、巧妙な演出により信じ込んでしまうケースが増えています。簡単に儲かる話をわざわざ人に教えるはずがありません! うまい話には必ず裏があります。冷静になりましょう。

問 戸塚警察署 (Tel) 862-0110、区役所地域活動係 (Tel) 866-8415 (Fax) 864-1933